

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【商業／簿記】

1. 対象

この集団は、教師の発問に対して周囲と協働しながら積極的に考えることができる。

そのため、1時間の授業内で必ずペアもしくはグループで意見を交換する時間を設け、ただ知識を詰め込むだけでなく、簿記の処理について理論を持って考えることができるように働きかけてきた。

前時の授業では、次の3点について授業をおこなった。

- ①「商品売買益」と「売上高」の違いについて
- ②「分記法」と「3分法」の違いについて
- ③「仕入原価」と「売上原価」の違いについて

その結果、「分記法」と「3分法」の違いから、「商品売買益」と「売上高」の違いについては理解を深めることができた。しかし、「仕入原価」と「売上原価」の違いについては、まだ理解できていない生徒が多い。

2. 単元名「決算整理」（全5時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技術	売上原価の算定、貸倒れの見積もり、減価償却に関する手続きの基礎的な知識と処理の流れについて理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	売上原価の算定、貸倒れの見積もり、減価償却に関する手続きの基礎的な知識と処理の流れについて妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応している。
③主体的に学習に取り組む態度	売上原価の算定、貸倒れの見積もり、減価償却に関する手続きの基礎的な知識と処理の流れを適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な決算整理の手続きに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4. 本時の目標 3分法における売上原価の算出方法を自ら導き出す。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い

「売上高の合計 - 仕入高の合計 = 商品売買益」とならない場合は、どのような場合だろうか？

考えるための材料A	考えるための材料B												
<p>【ワークシート】</p> <p>Q. 前年度の売れ残り、今年度の売れ残りがない場合の商品売買益はいくらだろうか？</p> <p>情報① 純仕入高 ¥150,000</p> <p>情報② 純売上高 ¥250,000</p> <p>情報③ 仕入れた商品完売</p>	<p>【ワークシート】</p> <p>Q. 前年度の売れ残りはないが、今年度の売れ残りがある場合の商品売買益はいくらだろうか？</p> <p>情報① 純仕入高 ¥150,000</p> <p>情報② 純売上高 ¥250,000</p> <p>情報③ ¥15,000売れ残った</p>												
想定される活動	想定される活動												
<p>(1) ¥150,000で仕入れた商品を売ったのだから、売上高との差額が商品売買益であることに気付く。</p> <p>(2) 売上原価は仕入高と同じであることに気付く。</p> <p>(3) 常に、仕入高＝売上原価であると間違った認識をする。</p>	<p>(1) 売れ残り分をどのように処理すればよいか考える。</p> <p>(2) 売れ残った分は倉庫に残っていることに気付く。</p> <p>(3) 倉庫から出ていった分は¥135,000(¥150,000-¥15,000)であることに気付く。</p> <p>(4) 売れ残った分は、常に今年の仕入高から引けばいいと間違った認識をする。</p>												
考えるための材料C	考えるための材料D												
<p>【ワークシート】</p> <p>Q. 前年度の売れ残り、今年度の売れ残りがある場合の商品売買益はいくらだろうか？</p> <p>情報① 純仕入高 ¥150,000</p> <p>情報② 純売上高 ¥250,000</p> <p>情報③ ¥15,000売れ残った</p> <p>情報④ 前年売れ残り ¥30,000</p>	<p>【ワークシート】</p> <p>Q. ○○商店と△△商店では、儲かっている商店はどちらだろうか？</p> <p>情報① ○○商店 売上高 2,000,000 △△商店 商品売買益 1,000,000</p> <p>情報②</p> <table border="1" data-bbox="799 1128 1436 1234"> <thead> <tr> <th></th> <th>仕入高</th> <th>今年売れ残り</th> <th>前年売れ残り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○○商店</td> <td>980,000</td> <td>25,000</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>△△商店</td> <td>1,010,000</td> <td>30,000</td> <td>15,000</td> </tr> </tbody> </table>		仕入高	今年売れ残り	前年売れ残り	○○商店	980,000	25,000	30,000	△△商店	1,010,000	30,000	15,000
	仕入高	今年売れ残り	前年売れ残り										
○○商店	980,000	25,000	30,000										
△△商店	1,010,000	30,000	15,000										
想定される活動	想定される活動												
<p>(1) 今年の売れ残った分は、材料Bと同じだから、今年の仕入高から引けばいいと気付く。</p> <p>(2) 前年の売れ残りも同じ売れ残りだから、引けばいいのではないかと考える。</p> <p>(3) 前年の売れ残った分について、どのように扱ったのかを考える。捨てた？今年売った？</p> <p>(4) 賞味期限が関係していなければ捨てることはないだろう。きっと今年売ったのではないかと考える(前年の売れ残りは次の年に売ればいい)</p> <p>(5) 売ったのであれば、売った商品は倉庫から出ていったと考えるのが普通じゃないかと考える。</p> <p>(6) 倉庫から出ていったのであれば、売上原価は増えるのではないかと気付く。</p> <p>(7) 同じ売れ残りでも前年の売れ残り、今年度の売れ残りでは処理が違うことに気付く。</p>	<p>(1) 売上原価を求めることが、判断するために必要な情報だと気付く。</p> <p>(2) 売上原価を求めるためには、①今年の仕入高、②今年の売れ残り、③前年の売れ残りを把握することが必要であると気付く。</p> <p>(3) 売上原価を求めた結果、「○○商店」の方が儲かっていると判断する。</p> <p>(4) 売上原価を求めるための式を考える。</p> <p>(5) 売れ残りについて、どのように処理をしたのかを確認する。</p>												

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【個人（2分）→ペア学習（2分）】 4分

- ・与えられた考えるための材料Aから、今年の売れ残りが無い場合の「売上原価」について考える。

＜考えるための材料Aに対する対話と思考＞

- ・仕入れた分が全部売れたということは、¥150,000分の商品が全部倉庫から出ていったということになるよね。
- ・¥150,000で仕入れた商品が¥250,000で売れたということだから、儲けは¥100,000だよ。
- ・そうすると、売上原価は¥150,000だよ。
- ・じゃあ、この場合、仕入高と売上原価は同じだね。

＜思考を深める発問＞

- ・仕入高と送料など仕入れる際にかかった費用を足したものをなんと言ったかな？
- ・売上原価と仕入原価は常に同じといえるかな？（昨日の復習）

【個人（2分）→ペア学習（2分）】 4分

- ・与えられた考えるための材料Bから、今年の売れ残りがある場合の「売上原価」について考える。

＜考えるための材料Bに対する対話と思考＞

- ・倉庫から出ていった商品は全部じゃないよね。売れ残りが¥15,000あるということは、倉庫から出ていった分は、¥15,000引いた¥135,000だよ。
- ・じゃあ、売上原価は¥135,000ということになるよね。
- ・売れ残りは、仕入れた分から引けばいいということかな？
- ・売上高は¥250,000で変わっていないから、この場合の商品売買益は¥115,000だね。

＜思考を深める発問＞

- ・もし、今年の売れ残りが¥20,000だったら、商品売買益はどのように変化するかな？
- ・売上原価と商品売買益にはどのような関係があるかな？関係性を考えてみよう！

【個人（2分）→ペア学習（2分）】 4分

- ・与えられた考えるための材料Cから、今年の売れ残りと言前年の売れ残りがある場合の「売上原価」について考える。

＜考えるための材料Cに対する対話と思考＞

- ・さっきの問題で今年の売れ残りは引いたから、今回も今年の売れ残りについては引いてみよう。じゃあ、前年の売れ残りはどうする？
- ・同じ売れ残りなんだから、前年の売れ残りも今年の仕入高から引けばいいんじゃない？
- ・今年の売れ残り分を引いたのは、倉庫から出て行っていないからだったよね。前年の売れ残り分は、きっと今年売っているよね？
- ・そうすると、倉庫から出ていった分に含めるんじゃないかな。

＜思考を深める発問＞

- ・ジュースを今年は5本仕入れました。それに加えて、前年の売れ残り分が2本ありました。でも、3本売れ残ってしまいました。売れた本数は何本でしょうか？
- ・この場合、前年の売れ残り分は今年仕入れた分に対して、足したかな？引いたかな？

【個人（5分）→ペア（3分）】 8分

・与えられた考えるための材料Dから、2つの商店を比較する

＜考えるための材料Dに対する対話と思考＞

- ・〇〇商店は売上高が分かっているから、商品売買益を求めるには売上原価を知りたいよね。
- ・売上原価を知るためには、どんな情報が必要だったかな？
- ・「今年の仕入高」と「今年の売れ残り」と「前年の売れ残り」が分かれば求められるよね。
- ・〇〇商店の売上原価は、¥985,000だから、商品売買益は¥1,015,000だね。
結果として、△△商店の商品売買益が1,000,000だから、〇〇商店の方が儲かっているんだね。

＜思考を深める発問＞

- ・売上原価の求め方を、式にして表してみよう！使う言葉は、自分なりの表現でいいですよ。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

【個人（3分）→グループ学習（5分）→発表（5分）】 13分

- ・解決したい課題や問いに対して、今日学んだことを生かしてまとめる。
- ・4人グループをつくり、グループ内で発表する。
- ・各班で代表者を1人選び、発表する。（全体でシェア）

「売上原価を把握することが大事なんだ。それが分かれば、商品売買益を求めることができる。」

「売上高だけだと、商品売買益は分からない。売上原価が分かれば、商品売買益が求められる。」

「今年仕入れた分だけしか考えていなかったけど、実際の社会では前年の売れ残りがあるし、今年だって全部売り切れるとは限らない。売上原価を求めるには、売れ残った分も計算に含めないといけないことが分かった。」

「今年の仕入高に対して前年の売れ残りは足して、今年の売れ残りは引けば、今年売れた分が求められることが分かった。それが売上原価なんだ。」

「売上原価を求める必要があることは分かった。この手続きをするために、簿記上ではどのような処理をする必要があるのかな？」